

## Development of a nursing care problems coping scale for male caregivers for people with dementia living at home

西尾, 美登里

<https://doi.org/10.15017/1522379>

---

出版情報 : 九州大学, 2015, 博士 (看護学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : 全文ファイル公表済

氏 名：西尾美登里

論 文 名： Development of a nursing care problems coping scale for male caregivers for people with dementia living at home.

(在宅で認知症者を介護する男性の介護問題対処尺度の開発)

区 分：甲

### 論 文 内 容 の 要 旨

高齢社会を迎えた我が国の認知症高齢者の数は、2013年の472万人から2025年には700万人を超えると推計されている。認知症は認知障害が低下する病態であり、精神症状や問題行動、日常生活活動の低下など、在宅で介護する介護者の心身の負担を増大させている。現在、在宅で認知症者を介護する男性介護者の割合は3割を占め、今後ますます増加が予想される。先行研究において男性介護者は、介護問題やストレスを抱えても、周囲に助けを求めない人が多く、介護問題にうまく対処出来ていないことが報告されている。

そこで本研究では、男性介護者による在宅で認知症者の介護の継続を目指し、男性介護者のQOLを向上させるための介護問題対処尺度を開発し、その信頼性と妥当性の検証を目的とした。介護問題対処尺度は、先行研究と男性介護者のインタビュー調査より抽出された要素を基に、表面妥当性が得られた21項目の質問で構成し、3件法にて回答を得るものである。これを用い、さらにZarit介護負担尺度日本語版(J-ZBI)、うつ症状の重症度得点(Self-Rating Depression Scale 得点)、ローゼンバーグの自尊心感情尺度項目得点について自記式質問紙調査を行った。

その結果、21項目の各平均値は1.56から2.68であった。全体の回答分布の中央値は39(SD6.6)であり、最頻値は40、平均値は38、最小値は21であり最大値は61であった。天井効果は5項目、床効果は2項目にみられた。介護問題対処尺度案とZarit介護負担尺度日本語版、うつ症状の重症度得点、ローゼンバーグの自尊心感情尺度項目総得点において、有意な相関を認めた。介護問題対処尺度は、中央値、平均値、最頻値の結果より正規分布が認められ、男性が介護において問題対処を明らかにするための指標であると考えられた。信頼性は、Cronbach's alphaは0.49で、約50%の安定性があると考えられた。妥当性は、Zarit介護負担尺度日本語版(J-ZBI)、うつ症状の重症度得点、ローゼンバーグの自尊心感情尺度項目総得点と当尺度の21項目中19項目において有意な相関が認められた。このような結果から、開発した介護問題対処尺度は、一定の信頼性、妥当性を有することが示唆された。

